

[TOP page](#)
[資料室](#)
[イベント情報](#)
[講師を探す](#)
[Worker's 広場](#)
[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [7つの習慣](#) | [社会を変える人間の生き方②](#)
[労働組合](#)
[労働者福祉・共済](#)
[一般教養](#)
[社会保障](#)
[労使トラブル法律相談Q&A](#)
[労働関係法](#)
[経営全般](#)
[人間関係とコミュニケーション](#)
[ライフプラン](#)
[男女共同参画](#)
[公務員関係法](#)
[日朝の歴史](#)
[7つの習慣](#)
[中東の歴史](#)
[ボランティア活動](#)
[環境活動](#)
[社会貢献活動](#)
[自己啓発](#)
[生涯学習](#)
[外交・防衛問題](#)
[資本論](#)

社会を変える人間の生き方②

人間が「刺激」を受けて「反応」するだけの生き物だとしたらまさに人間も「パブロフの犬」である。これをコヴィ博士は「反応性モデル」と呼んだ。

博士は「反応性モデルというパラダイムは人間の本当の可能性を支える正しい原則と一致しているのだろうか」と反論している。

社会通念という鏡が歪んでいればその反応も歪んでしまうから、社会の進歩はありえないとして、「反応性モデル」に対して「主体性モデル」について次のように説明している。

人間は刺激と反応の間に選択の自由を持っている。
この選択の自由の中にこそ、人間の人間たる4つの独特な性質がある。
その4つとは、「自覚」「想像力」「自由意思」「良心」である。



博士の著書「7つの習慣」のなかで第1の習慣としてあげているのは「主体的である」ことだ。

間違った社会通念に流されないために、私たちは「主体的」であることを求められる。

その「主体的な生き方」を身につけるためには、「自覚」「想像力」「自由意思」「良心」という「4つの力」を育てなければならない。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[教育カリキュラム](#)

[日本国憲法](#)

[傾聴](#)

[語り部スキル](#)

[▶ キーワード検索はこちら](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.